

# 「絵本の読み語り」への意欲に関する調査研究 —保育内容(言葉) Iの授業を通して—

湯地由美

## The Research on the Motivation to “Read Picture Books” — Through the Class of Childcare Content (Language) I —

Yumi YUJI

抄 録

本研究は、1年生前期の保育内容(言葉) Iの授業において、絵本の読み語りについて学修した保育者志望の学生を対象にした。質問紙調査を行うことによって、子どもに対する絵本の読み語りへの意欲をもつ要因について明らかにし、授業の改善につなげていくことを目的にした。調査・分析の結果、絵本の読み語りの技術に対する自己評価が高い学生ほど意欲も高いことを確認した。1年生前期の段階での絵本の読み語りに関する授業においては、絵本の教育的意義や読み語りのポイントを押さえたうえで、実践演習を実施し、まずは自己有能感をもたせていくことが大切ではないかと考えられた。ただし、スキルアップを目指すかどうかについては、技術の自己評価の有意差はなく、絵本を読み語る姿を互いに見合うことによって、自身の刺激となっていることがうかがえた。

キーワード：絵本の読み語り、技術、自己評価

### はじめに

我が国では、「子ども読書年(2000年)」の理念を受け継ぎ、翌年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行された。その基本理念には、おおむね18歳以下の子どもの読書活動について、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」であると明示し、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」としている。そのため、各地方公共団体に対して「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の策定」を求め、現在、発達段階に応じた取組をポイントの一つにおいた第四次計画が進められている。その中の「幼稚園・保育所等の取組」では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に基づき、「絵本や物語に親しむ活動の充実」と「環境の整備」があげられており、子どもの読書活動を

社会全体で推進する中で、子どもと絵本との出会いを紡ぐ保育者の役割の大きさや期待の高さをうかがい知ることができる。また実際に、本学の保育者志望学生のほぼ大半が、保育・教育実習において、「絵本の読み語り」を体験してくる。したがって、養成校での絵本に関する知識・技能の修得は必要不可欠であるといえる。

本学の保育者志望学生は、1年生前期に位置づけられている「保育内容(言葉) I」の授業により、絵本に関わることになる。そこで履修した学生たちが、絵本の読み語りに対して好意的なイメージを持ち、履修後も絵本の読み語りに意欲をもって関わってほしい。そこで、絵本の読み語りに意欲をもつ学生はどのような特徴をもっているのかを明らかにし、今後の指導に役立てたいと考えた。

そこで研究 I では、授業内で全員の前で行った絵本の読み語りについての自己評価から、絵本の読み語りへの意欲との関係を明らかにする。研究 II では、友達の絵本の読み語りを見ることによって得た学び

から、意欲の向上をもたらす要因について明らかにすることを目的とする。

絵本の読み聞かせに関する先行研究については、様々な授業実践が報告されており、限られた時間の中で実践力を身に付けるための工夫がなされている。玉瀬（2005）は、学生に対して事前に読み聞かせの技術に関する説明を行わず、クラス全員の前での読み聞かせを実施し、その感想から学びを明らかにした。それによると、読み聞かせの難しさを実感することにより、間違えずに読むことよりも、声の大きさ、視線や表情などの非言語的表現方法の重要性に気付いたことを示唆した。

しかし、このような方法に対し、金ら（2019）は、アクティブラーニングの基本的な考え方を押さえたうえで、「読み聞かせに関する知識を教えることで、体験による気づきを明確にしたり、補完することができる」という考えから、外部講師を招聘して事前に知識を教えた。その結果、絵本の読み聞かせに関する学生の知識や技術が増えたことや自己効力感が得られたことを明らかにした。

また石井・畠山（2017）も、外部講師による講義や実演によって、学生の知識や技術の修得を図った。具体的には、1）共通教材の絵本をグループ2～3人で読み合い、絵本の内容や感じたことを話し合う、2）外部講師による講義の受講、3）保育所、幼稚園で「読み聞かせ」を行う、という取り組みを行い、学生の学びを検証した。その結果、回数をかさねるごとに、読み方・見せ方・セリフの言い回しから、絵本の中の人物の気持ちや絵本の中の絵について話が出てくるなど、「自分たちで絵本を楽しむようになってきている」ことや、少人数での取り組みにより思いを出しやすかったことが、コミュニケーション力や表現力、意欲の向上にもつながったということであった。さらに、外部講師による講義により、「絵本に関しての知識を増やすことで不安が解消して、意欲へつながっていることが見えてきた」とも述べている。

以上のことから、絵本の読み語りにおいて、知識を先に教えてもそうでなくても、どちらともに学修の効果があることは確かである。そのため、どちら

の方法をとるかは、学生に何を学び取ってほしいかといった授業のねらいにより選択していくことが妥当であると考えられる。少なくとも、先に知識を教えることにより、学生がある程度安心して「読み語る」ことができることは推測できる。さらには、絵本の読み語りにおいて留意すべき点などを自分なりに意識して取り組むことができることも期待できる。したがって2021年4月～9月にかけて行った四国大学生生活科学部児童学科の保育者志望1年生を対象とした「保育内容（言葉）Ⅰ」では、テキストを基にした知識の修得を実際の読み語りの前に行う方法をとった。また講師は招聘せず、保育経験を活かし、筆者が実際に絵本の読み語りを行う様子を見せたり保育現場でのエピソードを伝えたりすることで絵本の読み語りのイメージができるように努めた。

なお、一般に使用されている「絵本の読み聞かせ」については、その行為に対する受け取め方や読み手の思いによって「絵本の読み語り」（小松崎，2000；本田・本田，2009）や「絵本の読み合い」（仲本，2015；村中，2018）といった言葉が使用されている。本授業では、授業を担当する筆者が幼稚園教諭経験者であり、保育現場にいたときから「かたり」の心を継承する「読み語り」の理念に共感して使用していたこと、つまり子どもと「同じ高さの目と目で、話を通してお互いの心をつなぎ、納得し、同感し、共鳴し合って（小松崎，2000）」きたこと、また広く一般にも分かりやすいという観点により学生募集の段階から使用していたということもあり、「絵本の読み語り」という言葉を授業内でも使用した。しかし、「絵本の読み合い」にも同じ心もちを感じていることは言うまでもない。

## Ⅰ. 「保育内容（言葉）Ⅰ」開始までの取り組み

### 1. 入学前課題

本学では、「高大接続入試」「自己実現入試」「指定校推薦入試」など、一般入試前に入学を決めた高校生に対して、「入学前教育課題」を課している。本学科では、1年生の前期の授業に当たる「保育内容（言葉）Ⅰ」、「保育内容（環境）Ⅰ」、「教育原論」の3つの中から1つを選択して提出するものとし

た。本学では、1年生の後期に「子どもと絵本Ⅰ」として、認定絵本士資格の取得を目指す「認定絵本士養成講座」の前半を開講している。したがって、入学前に絵本に触れて親しんでおいてほしいというねらいから、「保育内容（言葉）Ⅰ」の課題は、絵本に焦点を当てた。具体的には「おすすめの絵本を見つけよう！」という課題で、絵本を10冊程度読み込み、その中から気に入ったものを1冊選び、「“どんな子どもに”“どんなときに”おすすめか」を考え、一目でわかるように、タイトルをつけ（例えば、「おもいきり笑ってほしい」ときにおすすめの絵本、「心地よいことばのリズムを楽しんでほしい」ときにおすすめの絵本など）、A4用紙1枚に、以下の内容をまとめるというものであった。

- ①おすすめのタイトル
- ②絵本の題名、作者（絵本によっては訳者も加える）、出版社、出版年、絵本をすすめる相手
- ③その絵本だとわかる絵
- ④あらすじ
- ⑤おすすめの理由（選択理由・その絵本のよさ・おすすめする相手への願いなど）

74名の対象者のうち、「保育内容（言葉）Ⅰ」の課題を選択した高校生は38名おり、さらに提出義務のない一般入試合格者の中から6名が上述の課題を提出した。その中から保育者志望として実際に本授業を受講した者は36名であった。

全15回の授業終了後、この課題を選択した者を対象として、「入学前に絵本の課題をしたことで授業への取組にどのような影響がありましたか」という問いを行ったところ、35名の回答を得た。「特に影響はなかった」と回答した者は2名にとどまり、「絵本に前よりも興味がわいた」「自分はこの人の描いた絵が好きだったんだということが分かった」「モチベーションがあがり授業への取り組みがより真剣になった」「子どもに与える影響があることをより深く知りたいと思った」「授業で絵本に触れるときにスムーズに幼少期の感覚を思い出すことができた」「より一層、絵本に対して興味が出てきた。やらなかったら興味があってもやるより低かったと思う」など、絵本への関心の高まりに一定の効果があるこ

とが感じられた。

## 2. 入学オリエンテーションにおける教員の絵本の読み語り

対象学生の入学時の学科オリエンテーションで、教員3名による『ほくをさがしに』（作・絵：シェル・シルヴァスタイン 訳：倉橋由美子）の絵本の読み語りを行った。後日、「保育内容（言葉）Ⅰ」の授業内で率直な感想を自由記述で聞いたところ、受講生80名のうち68名の回答を得た。すると、教員の読み語りへの恐れや、「自分もそのように子どもを楽しませてあげたい」「みんなを引き込ませられるようになりたい」「わたしも上手に読めるようになりたい」「わたしも頑張ろうと思えた」などの意欲が半数あった。以上のことから、絵本への関心にも少なからずつながっていたことがうかがえた。

## Ⅱ. 「保育内容（言葉）Ⅰ」の概要

### 1. 授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が示す領域「言葉」について理解できるよう、事例や視聴覚教材、グループ討論等を通して、乳幼児期における言葉の発達や保育者の役割等、保育者として必要な基礎知識を修得する。また、絵本の読み語りや保育教材の制作・実演等を体験し、実践力を養う。

### 2. 授業計画

『コンパス保育内容言葉第2版』（内藤・新井、2017）をテキストとして使用し、前半の8回までを理論、後半を実践演習として位置づけ、先に示したように、実習に行ったほとんどの学生が絵本の読み語りを経験してくることから、実習に行くまでに実践を積んでおくことが望ましいと考え、絵本の読み語りを多めに組み込んだ。各回の概要については以下の通りである（表1）。テキストでは、理論にあたる各回ごとに、各年齢の発達に応じた絵本の実践報告や紹介があることから、そこでは実物の絵本を見せ、学生に子ども役になってもらい実際に絵本の読み語りを行ったり、保育現場でのエピソードを伝えたりした。なお表の太い黒枠で示した回は、後半に行った絵本に関わる実践演習である。連続で3回

を行わなかったのには、2つの理由がある。1つは、練習時間の確保である。もう1つは、絵本の「語り」と紙芝居の「芝居」の特徴の違いを実感したうえで、「読み語り」にあらためて取り組んでほしいというねらいがあったからである。その結果、紙芝居の授業後の感想では、上述の違いを示して意識して取り組んだという内容が約半数見られた(47.0%)。

表1 保育内容(言葉)Iの概要

回	授 業 内 容
1	ガイダンス
2	言葉をめぐるワークショップ
3	0歳児の言葉の発達と保育者の援助
4	1歳児の言葉の発達と保育者の援助
5	2歳児の言葉の発達と保育者の援助
6	3歳児の言葉の発達と保育者の援助
7	4歳児の言葉の発達と保育者の援助
8	5歳児の言葉の発達と保育者の援助、及び小学校との連携
9	名前カードの制作(保育への活用)
10	言葉の発達を促す児童文化財(わらべうた、手遊び、言葉あそびなど)
11	絵本の歴史や教育的意義、及び読み語りのポイント ①解説を聞く。 ②各自、読み語りの練習をする。 ③ペアになり、互いに読み語りを行い、気付きや感想を伝え合う。 ④改善点を踏まえて再度練習する。 ⑤学びをレポートにまとめる。
12	言葉を育てる指導と指導計画(絵本の指導計画作成) ①解説を聞く。 ②各自、読み語りに使用する絵本の特徴や自身が伝えたいこと(願い)を明らかにする。 ③指導計画を作成する。
13	紙芝居の歴史や教育的意義、及び実演のポイント ①解説を聞く。 ②各自、実演の練習をする。 ③ペアになり、互いに実演を行い、気付きや感想を伝え合う。 ④改善点を踏まえて再度練習する。 ⑤学びをレポートにまとめる。
14	全員の前の「絵本の読み語り」 ①一人ずつ全員の前で「絵本の読み語り」を行う。 ②成果・反省、友達の読み語りを見て気付きや学びをまとめる。
15	名前カードの発表 全体のまとめ

### Ⅲ. 研究 I

#### 1. 研究方法

##### 1) 調査対象

2021年度保育者養成校(A大学)1年生前期の『保育内容(言葉1)』の受講生79名のうち、有効回答数は65名であった。調査の前に研究の目的、プライバシーの保護、研究成果の公表、本調査に協力するか否かは自由意志で決定すること、協力しなくても不利益を受けることはないことなどを調査の説明文に明記するとともに口頭でも説明した。

##### 2) 調査時期

2021年前期の授業終了(8月10日)から8月末までの約20日間で行った。

##### 3) 調査方法

授業内で質問紙調査について説明し、調査協力できる場合はLMS(学習管理システム: Learning Management System)に8月末までに回答するよう求めた。

##### 4) 調査内容

(1)読書や絵本についての意識について、a)あなたは読書が好きですか、b)あなたは絵本を「見る」ことが好きですか、c)あなたは絵本を「読み語る」ことが好きですか、という各々の問いについて、「とても好き(もともと好きだった)」「わりと好き(授業を通して好きになった)」「どちらともいえない」「あまり好きではない」「まったく好きではない」の5件法で尋ね、得点化した。

(2)保育内容(言葉)Iの授業での絵本の読み語りについて、a)発表時に読み語るうえで、一番留意したことは何かを自由記述で回答を求めた。さらに、b)「楽しんで読むことはできたか」「子どもの前で読んでみたいと思ったか」について、「よくできた(とても思う)」「まあまあできた(まあまあ思う)」「どちらともいえない」「あまりできなかった(あまり思わない)」「まったくできなかった(まったく思わない)」の5件法で尋ね、得点化した。

(3)保育内容(言葉)Iの授業での絵本の読み語りの技術について、a)絵本の読み方、b)絵本の持



ち方, c) 絵本のめくり方について, 「よくできる」「まあまあできる」「どちらともいえない」「あまりできない」「まったくできない」の5件法で尋ね, 得点化した。

(4)後期に, 絵本のスペシャリストを目指し, 認定絵本士養成講座を開講するため, その受講意思として「受講しようと思うか」「その理由」を自由記述で問うた。

(5)先に述べた「入学前課題」の提出を必要とした者の中で「絵本課題」を選んだ者のみが答える項目として, 「絵本課題を選んだ理由」と「絵本課題をしたことによる授業への取り組みへの影響」を自由記述で問うた。

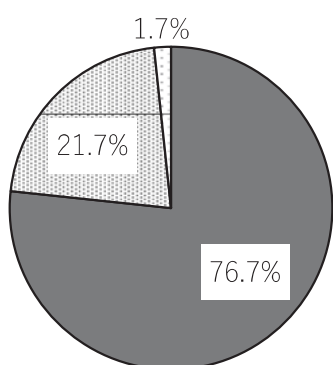
## 5) 分析方法

質問紙調査の分析は, IBM SPSS Statistics 28を用いて行った。

## 2. 結果と考察

### 1) 保育内容（言葉）Iの授業での「絵本の読み語り」の自己評価

保育内容（言葉）Iの授業において全員の前で行った絵本の読み語りについて, 「楽しんで読むことができたか」と尋ねたところ, 「よくできた」76.7%, 「まあまあできた」21.7%, 「どちらともいえない」1.7%と, 4分の3は「よくできた」という評価をしていた(図1)。



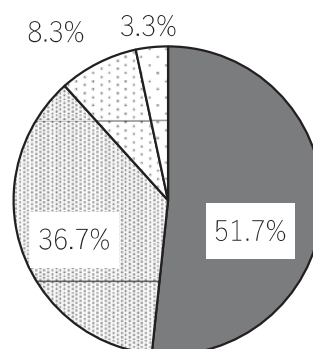
■よくできた □まあまあできた □あまりできなかった

図1 楽しんで読むことができたか

絵本の読み語りにおいて, 子どもの前に立つ者が楽しめていなくては相手に伝わるものも伝わらないだろう。したがって, 「よくできた」「まあまあできた」を合計して98.4%が絵本の読み語りを楽しむこ

とができたと回答していた。今回の発表において, 「全員の前での発表は, 練習の成果を見せることであるとともに, 人前で読み語ることの経験を積むという目的で行うため, 1年生の前期の段階で技術を評価することはしない」「聞き手と絵本を共有したい思いをもって心を込めて読むことが何よりも大切である」ということをあらかじめ伝えていたため, リラックスして読み語るることができたことが楽しめたことにつながったのではないかと考えられる。

一方, 「子どもの前で読んでみたいと思ったか」という問いでは, 「とても思う」51.7%, 「まあまあ思う」36.7%, 「どちらともいえない」8.3%, 「あまり思わない」3.3%という結果(図2)となり, 「とても思う」が約4分の3から約2分の1に減った。自分なりに楽しんで絵本を読むことができたとしても, 子どもの前で実際に読むとなると, まだ自信が十分にもてないのかもしれない。



■とても思う □まあまあ思う  
■どちらともいえない □あまり思わない

図2 子どもの前で読んでみたい

絵本の読み語りの技術の自己評価の結果については以下の通りである。

「絵本の読み方」については, 「よくできる」18.3%, 「まあまあできる」45.0%, 「どちらともいえない」26.7%, 「あまりできない」6.7%, 「まったくできない」3.3%であった。

「絵本の持ち方」については, 「よくできる」18.3%, 「まあまあできる」60.0%, 「どちらともいえない」15.0%, 「あまりできない」5.0%, 「まったくできない」1.7%であった。

「絵本のめくり方」については, 「よくできる」16.7%, 「まあまあできる」48.3%, 「どちらともい

えない」30.0%、「あまりできない」「まったくできない」はそれぞれ1.7%であった。

以上のように、絵本の読み語りの技術について、絵本の持ち方は8割が「できる」と答えていた。しかし、絵本の読み方・めくり方が「できる」と答えたのは6割であり、肯定した割合は2割ほど減少した（図3）。

ちなみに、絵本の読み語りにおいて、「心を込めて読む」こと以外の留意点として、授業では以下のことを教授した（表2）。

「持ち方」の留意点は比較的見た目にわかりやすいものであるが、「めくり方」と「読み方」については、各々の匙加減による点もあり、評価しづらい面があったように思う。

### 2) 絵本の読み語りで留意したこと

次に、「絵本の読み語りの際に留意したこと」を問うた自由記述の回答から、キーワードを書き

表2 「絵本の読み語り」において留意する点

持ち方	①しっかり開く
	②ぐらつかない
	③相手に見える角度
	④絵を隠さない
めくり方	⑤スムーズに
	⑥手が画面にかからない
	⑦タイミング（絵をしっかりと見ることができるよう）
読み方	⑧一連の流れ（表紙～裏表紙～表紙）タイトル・作者名を読む
	⑨声の大きさ
	⑩読む速さ
	⑪間

出し。類似したキーワードを順次まとめていくことによって、「読み方」「持ち方」「めくり方」「目線」「意識」「表情」の6つのまとまりを得た。なお、「一番留意したこと」と問うたが、「ゆっくりと大きな声で」「間の取り方や絵本の持ち方」などと複数のポイントが入っている回答もあったため、その際は分割した。その結果、圧倒的に「読

表3 絵本の「読み語り」で留意したこと

カテゴリー	内容	延人数	%
読み方	読む速さ（ゆっくり）	33	59人 (71.9%)
	声の大きさ	10	
	心を込めて	8	
	はきはきと	4	
	誇張しすぎないように	2	
	オノマトペの表現	1	
	発音	1	
持ち方	絵が見えやすいように（隠さないように）	4	8人 (9.8%)
	傾かないように（角度）	2	
	ぐらつかないように	2	
めくり方	めくるタイミング	4	8人 (9.8%)
	間の取り方（絵が良く見えるようにめくってすぐ読まない）	4	
目線	みんな（子ども役）の顔を見ながら	2	2人 (2.4%)
意識	目の前に子どもがいることを想像しながら	1	4人 (4.9%)
	絵本の世界を想像しながら	1	
	どうすれば絵本の楽しさを伝えられるか考えながら	1	
	次の展開がどうなるのか期待させられるように	1	
表情	表情	1	1人 (1.2%)

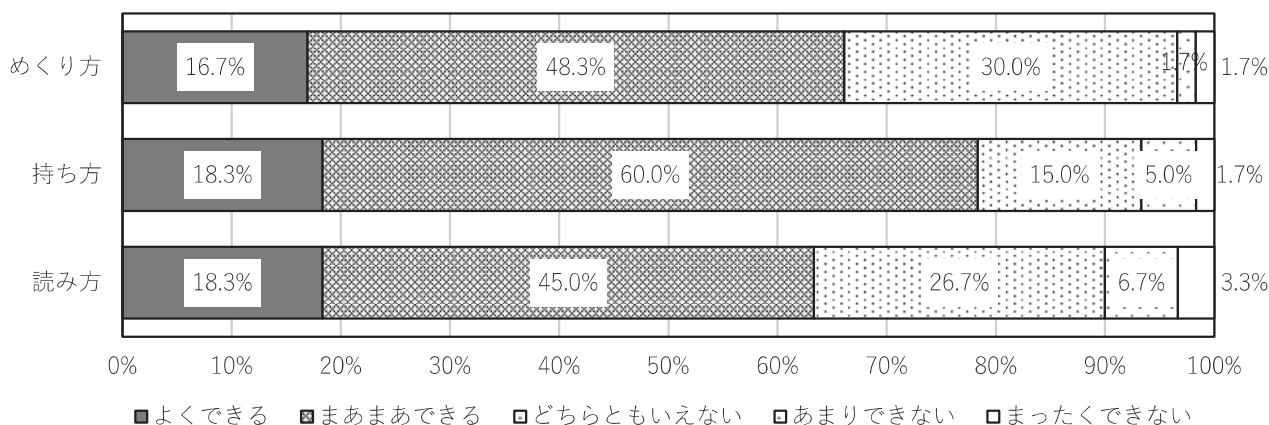


図3 絵本の読み方・持ち方・めくり方

み方」が多く、「持ち方」「めくり方」がそれぞれ9.8%であった(表3)。また「読み方」については、特に「読む速さ」についての意識の高さがうかがえた。学生の練習風景を見た時に、緊張から早口になる傾向が見受けられたため、子どもの前で読むことと緊張具合を考慮し、「遅すぎるくらいでちょうどよい」という助言をしたことが印象に残ったのではないとも考えられる。

### 3) 絵本の読み語りへの意欲との関係について

絵本の読み語りの自己評価で「子どもの前で読んでみたい」と「とても思う」者は約半数いた(51.7%)。「子どもの前で読んでみたい」というのは、「読み語り」への意欲が高いということを示している。授業での絵本の読み語りの経験がこうしたモチベーションになれば、保育現場で積極的に活用することになり、授業の目的にもマッチするといえる。

そこで、「子どもの前で読んでみたい」という問いに「とても思う」と答えた31名を「意欲高群」、その他の回答を「意欲低群」として子どもの頃の読書活動や授業への意識、絵本の読み語りの技術などとの関連について、クロス集計を行い、絵本の読み語りへの意欲の高さの背景を探った。統計的な検定は、フィッシャーの正確確率検定(Fisher's exact test)による。各セルの割合が有意に多いか少ないかについては残差分析( $p<.05$ )を行った。

まず子どもの頃の読書活動について、「意欲高群」と「意欲低群」を比較した結果、絵本の意識について見てみると、「あなたは読書が好きですか」「あなたは絵本を「見る」ことが好きですか」と尋ねた項目では、「意欲高群」と「意欲低群」の間では有意差はなかった。

しかし、「あなたは絵本を「読み語る」ことが好きですか」という項目には、有意差が見られた。すなわち、絵本を「読み語る」ことが「好き」と答えた「意欲高群」は90.3%いたのに対して、「意欲低群」は51.7%であった。以上のことから、絵本を見たり読書をしたりするのが好きなだけでは、子どもの前で読み語りたいという意欲までに

は及ばず、絵本を読み語ることが好きだという実感が必要であることが明らかとなった。そこで、実際の絵本の読み語りの技術について自己評価したものを検討したところ、「楽しんで読むこと」「絵本の読み方」「絵本の持ち方」「絵本のめくり方」について、それぞれに有意差が見られた。「意欲高群」は「できる(よくできる・まあまあできる)」と答えた者が「楽しんで読むこと」90.3%、「絵本の読み方」90.3%、「絵本の持ち方」93.5%、「絵本のめくり方」83.9%と、「意欲低群」より多かった(表4)。したがって、自分なりに手ごたえを感じていることが重要な要素となることが明らかとなった。

以上のことから、絵本の読み語りへの意欲と技能は連動しており、読書や絵本を見るのが好きなだけでは子どもの前で読み語りたいとは思わず、技術の自己評価が高いことが意欲につながることを示唆された。

しかし「認定絵本士養成講座を受講しようと思うか」という問いについて、両者に有意差が見られなかった。この結果から、現段階で絵本の読み語りへの意欲が薄い者も、今後スキルを身に付けて自信に繋げたいという前向きな気持ちがあるの

表4 「読み語り」への意欲でみたクロス集計の結果

質問項目	意欲高群 (31名)	意欲低群 (29名)	全体 (60名)	p 値
その他	25.8%	69.0%	46.7%	
読書が好き	好き 67.7%	55.2%	61.7%	.427
その他	32.3%	44.8%	38.3%	
絵本を「見る」 ことが好き	好き 100.0%	89.7%	95.0%	.107
その他	0.0%	10.3%	5.0%	
絵本を「読み語 る」ことが好き	好き 90.3%	51.7%	71.7%	.001
その他	9.7%	48.3%	28.3%	
楽しんで読む こと	できる 90.3%	62.1%	76.7%	.014
その他	9.7%	37.9%	23.3%	
絵本の読み方	できる 90.3%	34.5%	63.3%	.001
その他	9.7%	65.5%	36.7%	
絵本の持ち方	できる 93.5%	62.1%	78.3%	.004
その他	6.5%	37.9%	21.7%	
絵本のめくり方	できる 83.9%	44.8%	65.0%	.003
その他	16.1%	55.2%	35.0%	
認定絵本士養成講 座を受講したい	思う 83.9%	65.5%	75.0%	.139
思わない	16.1%	34.5%	25.0%	

ではないかと推察される。

#### IV. 研究Ⅱ

##### 1. 研究目的

絵本の読み語りをするクラスメイトを見るという「聞き手」側になったときに、どのような学びを得ているのか、また、そのことによって絵本の読み語りへの意欲を誘発するものはあるかということをも明らかにする。

##### 2. 研究方法

###### 1) 調査対象

2021年度保育者養成校（4年生大学）1年生前期の『保育内容（言葉1）』の受講生79名

###### 2) 調査時期

2021年7月

###### 3) 調査方法

授業後の自由記述の感想（友達の読み語りを見ての感想：気付き・学びなど）から、キーワードを書き出し、類似したキーワードを順次まとめていくことによって、「技能への気付き」「様々な絵本への関心」「努力への意欲」「心地よさ」「個性への気付き」「伝わってきた実感」「半面教師」の7つのまとまりを得た。なお、一つの回答に2つの要素がある場合は分割してカウントした。

##### 3. 結果と考察

1) 調査の結果、延人数で「技能への気付き」が最も多く（112名）、「様々な絵本への関心」と「努力への意欲」が各29名、「心地よさ」が24名、「個性への気付き」が13名、「伝わってきた実感」が10名、「半面教師」が4名であった。

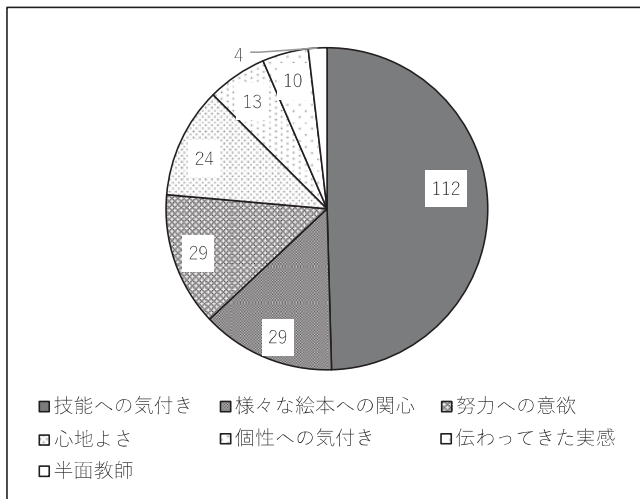


図4 クラスメイトの絵本の読み語りを見ることによる気付きや学び

性への気付き」が13名、「楽しそうな雰囲気」が伝わってきた」「絵本って面白いと思った」などといった「伝わってきた実感」が10名、「絵本ばかり見ていると一方的になってしまうので気を付けたい」といった「半面教師」が4名であった(図4)。また、回答者の人数をみると「努力への意欲（29人）」をあげたものは全体の約4割に及んだことから、友達の絵本の読み語りを見ることによって半数弱に向上心が芽生えたことがうかがえた。

###### 2) 「技能」の賞賛による内訳

クラスメイトの読み語りを見て、「技能」を賞賛したものの内訳を以下に示す（表5）。

以上の結果から、「読む速さ」への着目が最も高く、次いで「心を込めて読む」「声の大きさ」が同数で続いた。ゆっくり読むことで「聞きとりやすい」という気付きを得たものが多かった。

研究Ⅰと分母が異なるため、単純比較はできないが、「絵本の読み語りで留意したこと」という「読み手」としての視点と「聞き手」としての結果が同じような傾向にあることは一目瞭然であった。

表5 「技能」の賞賛による内訳

	内容	延人数	%
読み方	読む速さ（ゆっくり）	18	72人 (64.3%)
	心を込めて	12	
	声の大きさ	12	
	指差し	9	
	声のトーン	5	
	リズム	4	
	読み方（全体）	4	
	強弱	3	
	メリハリ	3	
	スラスラ	1	
	聞き取りやすい声	1	
めくり方	間の取り方	11	16人 (14.3%)
	めくるタイミング	5	
目線	聞き手の反応を見ながら	10	10人 (8.9%)
持ち方	見せ方	3	8人 (7.1%)
	安定	3	
	持つ位置	2	
雰囲気	表情	3	6人 (5.4%)
	姿勢	1	
	堂々	1	
	声から伝わる心情	1	



また、「読み手」として留意した点で「聞き手の反応を見ながら（みんなの顔を見ながら）」はわずか2名であったが、「聞き手」として見ることで10名に増えたことや、まったくなかった「指差し」への気付きが見られた（9名）ことも大きな特徴であった。

以上のことから、実際に聞き役になることで、あらためてフィードバックできることから、得られる効果は大きいといっても過言ではないだろう。また、人数分の絵本を見たことで、様々な絵本があることを知り、「知らなかった絵本を読みたい」「たくさん絵本と出会いたい」「お気に入りの絵本を見つけたい」など、絵本への関心がさらに深まった様子もうかがえた。さらに、「心を込めて」読むという、技術面以前の心もちについて目を向ける姿勢が「読み手」「聞き手」双方の立場で見受けられるのは、絵本の読み語りが一方的なものではなく、聞き手と共鳴するという絵本の読み語りの本質が意識されているといえる。

## V. まとめと今後の展望

本研究では、将来保育者として子どもたちに絵本との出会いをもたらし絵本に親しむことに貢献することが期待される保育者希望学生に、絵本の読み語りへの興味関心を深め、向上心を抱いてほしいというねらいのもと、「保育内容（言葉）Ⅰ」において、絵本の読み語りに関する授業で何を大切にすべきか、授業後の感想や質問紙調査を用いて、読み語りに意欲をもつ学生の特徴を見出し、今後の指導に役立てることを目的に行った。

調査の結果、以下のことが明らかとなった。

1. クラスメイト全員の前で行った絵本の読み語りについて、ほぼ全員が「楽しんで読むことができた」とプラスの自己評価をしていた。

その要因について2つのことが考えられた。

1 つめは、テキストや教員による絵本の読み語りなど、知識を得た後にグループワークを通して練習を行ったことから、ある程度のイメージをもって取り組むことができたという「安心感」があったのではないかとということである。

2 つめは、「評価されないこと」への「安心感」が根底にあったのではないかとということである。つまり、心を込めて読むことを重要視し、全員の前での絵本の読み語りは、練習の成果を見せ経験を積むことが目的であるため技術の評価はしない、ということをもつて伝えていたため、リラックスして臨むことができたことが結果として楽しめたことにつながったのではないかと考えられた。

2. 読書をしたり絵本を見たりするのが好きなだけでは、子どもの前で読み語りたいという意欲までには及ばないが、絵本を読み語ることが「好きである」ことや「楽しんで読むことができた」という実感、及び「絵本の読み方」「絵本の持ち方」「絵本のめくり方」において、自分なりに手ごたえを感じていることが意欲につながる要素になるということが明らかとなった。

したがって、手ごたえを感じる基準となる絵本の読み語りにおける「留意点」は示しておいた方がよいということも言えるだろう。なお、絵本の読み語りの技術は、もちろんこれだけではない。絵本の選択や読み取り、指導計画の作成など、様々な要素がある。本研究は、1年生前期の授業として大切にすべきことということを確認しておきたい。

3. 絵本の読み語りへの意欲が低くてもスキルアップを望んでいることが明らかとなった。

したがって、授業終了後もスキルアップの機会を保障し自信につなげていけるようにしていきたい。本学では「認定絵本土養成講座」として「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」や保育内容（言葉）Ⅱ等の科目が用意されているが、附属園が隣接していることから、新型コロナウイルス感染拡大が収束した際には、保育ボランティアを復活させたい。実際に子どもの前で読み語ることを通して、絵本を子どもと共有する喜びを得ることにより、意欲の高まりに影響を及ぼすのではないかと期待する。

4. 友達の絵本の読み語りを見ることによって、約4割の学生に向上心の芽生えが感じられた。また、

気付きや学びとして、多くが「読む速さ」に着目し、次いで同数で「心を込めて読む」「声の大きさ」が続いた。これは「読み手」として留意したことと同じ傾向であった。さらに、読み手の際には着目していなかった「聞き手の反応を見ながら」読むことや「指差し」などへの気付きが見られた。

このことから、実際に聞き役になることで、これまで気づけなかったことに気付くことができることや、あらためてフィードバックできることから学びの深まりがあること、さらには人数分の絵本を見ることから絵本へのさらなる関心につながるといった利点があることがうかがえた。

5. 授業に直接には関わらないが、授業までの取組として行った「入学前課題（一部学生対象）」や入学オリエンテーション時での「教員による絵本の読み語り」も伏線として、意欲の喚起に影響していたことが推測された。

以上、調査の結果得られた知見を今後の保育者養成の取組において活かしていきたい。

## 謝辞

本研究の内容は、四国大学学際融合研究所での研究活動の成果として得られたものである。

The results of this research were obtained through research activities conducted by the Institute of

Interdisciplinary Research, Shikoku University.

(Shikoku University Institute of Interdisciplinary Research)

## 参考・引用文献

1. 本田好・本田すみ江, 2009. 読みがたり 基本と実践, 第一企画株式会社
2. 石井美和子・島山君子, 2017. 保育実践力を身に付ける授業方法に関する一考察 I 報 - 絵本の読み聞かせに関する学生の学び -, 聖霊女子短期大学紀要, 45号: 63-75.
3. 金娟鏡・堀之内さち子・黒瀬圭子, 2019. 鹿児島国際教育学部研究紀要 教育科学編, 67-82.
4. 小松崎進・大西紀子, 2000. この絵本読んだら - 子どもが喜ぶ絵本の読みがたり -, 高文研: 9-10.
5. 内藤知美・新井美保子 編著, 2018. コンパス 保育内容言葉 [第2版], 建帛社
6. 村中李枝, 2018. 保育をゆたかに絵本でコミュニケーション, かもがわ出版
7. 仲本美央, 2015. 絵本を読み合う活動のための保育者研修プログラムの開発, ミネルヴァ書房
8. 玉瀬友美, 2005. 幼児保育専攻学生における絵本の読み聞かせに関するとらえ方の変化 - 読み聞かせ体験をとおして - 読書科学49 (2) 53-60.

## ABSTRACT

This research was aimed at students aspiring to be childcare workers who learned how to read picture books in the childcare content (language) I class in the first half of the first grade.

The purpose of this survey is to clarify what motivates children to read picture books by conducting a questionnaire survey, and to improve the lessons.

As a result of the survey and analysis, it was confirmed that the higher the self-evaluation of the picture book reading technique, the higher the motivation.

In the class about the reading of picture books in the first half of the first grade, it was thought that it is important to identify the educational significance of picture books and the points of reading, and then carry out practical exercises to give a sense of self-competence.

However, there was no significant difference in the self-evaluation of skills as to whether or not the students were aiming to improve their skills, suggesting that they were stimulated by watching each other reading picture books.

KEYWORDS: read picture books, skills, self-evaluation